

県政ネットワーク

県政ネットワーク発行者
発行人 田中ただみつ
所在地 〒633-2166
宇陀市大宇陀
迫間51-3
電話 0745-83-1188
FAX 0745-83-3272

県政ネットワークの紙サイズを変えました。必ずしも十分な報告レポートになっていないとの、反省があり、A3サイズの記事作成を試みました。

未来像実現へ

リニア中央新幹線建設促進奈良県期成同盟会平成24年度総会が開催された。



4月20日。JRはもちろん国土交通省、衆議院、参議院の議員や秘書を来賓として迎えて奈良県、県内市町村長、沿線他府県の代表者が一堂に集まった。東京名古屋間の着手は先行するとしても、竣工開業は東京大阪が一挙に開通することに意味があり、収益性を高め、幹線交通システムとしてのメリットがある。奈良駅の駅設置場所についての要望も出され、今年の大会は熱気に包まれた。田中ただみつ議員は、特別の支障がない限り毎年この会に出席しており、リニア新幹線の実現に向け声援を送っている。

大都市に焦点

4月24日公益法人 都市活力研究所の主催する「まちづくり・すまいづくりトーク第1回」「これからの都市再生を考える」が開催され参加した。大阪の立場関西の経済界から、一あらたな展開が始まりつつある「都市再生」をテーマに取り上げます。産官学の様々な立場から話題を提供いただくとともに、パネルディスカッションを通して、今後の都市のあり方を、様々な視点から皆様と共に考えていきたい。—というのが



主催者のねらい。都市再生の表題のもと、大阪府市の発展を続けていくための具体論を、理事者を巻き込む形で議論を展開していこうとする試みであった。出席者は国土交通省近畿整備局建政部長、大阪市計画調整局計画部長、株式会社三菱総合研究所地域研究本部主席研究員、関西学院大学総合政策学部教授らの話題提供やパネルディスカッションが行われた。



四月二十七日、県社会福祉総合センターにて

県議会では、議会改革は県議会にとどまらず県内の市町村議会運営に大きくかかわるものとして相互の共通した認識を、持つことが必要との思いからシンポジウムを開催した。宇陀市、曾爾、御杖議会からの参加がありました。テーマは「これからの地方議会の在り方を考える」。

議論進む県議会の改革

議会改革推進会議 (田中ただみつ議員所属)

県内4自治体議会から意見発表と議論が交わされた。はじめての試みであり、今後も継続して開催することが大切だと感じました。政治改革にとどまらず、共通する政策課題での協議や取り組みが大切であるとの思いを抱いています。



子供の命を守る奈良県軟式野球連盟の会(CLP)の総会が開かれ、野球チームの親たちが子供の安全に力を合わせようと努力を誓った。

県議会基本条例

県議会では平成22年12月第300回議会で奈良県議会基本条例を制定した。そして、今6月奈良県議会基本条例の解釈・運用を取りまとめ公表した。具体的な内容は、毎号少しずつ欄をつくり、掲載しますのでご覧いただき、ご意見をお聞かせください。

前文

奈良県は、いにしえより「国のまほろば」と称され、飛鳥時代から奈良時代にかけて都が置かれ、律令国家としての形を整えた「日本のはじまり」の地である。

明治4年に大和一円を統括した奈良県は、明治9年に堺県に合併され、更に明治14年には奈良県を含んだまま堺県が大阪府に合併されたが、大和選出の府会議員や有識者が中心となり、郷土の発展を願い、不屈の精神と熱烈な郷土愛に燃えて奈良県再設置運動を繰り広げ、明治20年に再び奈良県を誕生させた歴史。

奈良県誕生に力を尽くした先人の郷土愛、更に幾多の先輩の諸活動を受け継ぎ、奈良県議会は、これまで、県勢の発展のために活動を行ってきた。

現在、地方分権推進のさなかにあり、地方自治体の自己決定権が拡大するなど、地方自治を取り巻く環境が大きく変化している。県民の代表機関である議会は、県民がより質の高い政策を選択できるよう、県民の意見を聞き、県政に反映させる機能を発揮するとともに、議決権を有する機関として、及び知事その他の執行機関を監視する機関として、その責務を自覚し、真摯にその役割果たすことが求められている。

このため、本県議会は、日本国憲法及び地方自治法にのっとり、県民の代表機関としてその信託にこたえられるよう、議会のあるべき姿を明らかにするとともに、県民に開かれた議会運営、議会の機能の強化及び議会改革に努め、地方自治の確立に向けて取り組むことを決意し、議会における最高規範として、この条例を制定する。

県議会報告

今議会の審議の中でこれからの一年間の運営にかかわる大切な役員改選が、最終日の七月三日行われた。

田中惟允議員は、経済労働常任委員会、過疎・南部振興対策特別委員会の所属となった。

議案、理事者側報告、議会各委員長報告等が議了した後、議会役員改選に移った。

会派間の交渉に入った時には、議長候補や副議長候補が定まっておらず、主流派を構成する自民党会派と民主党会派の議員会会長会談で議長、副議長の調整が行われた。

今回の議長、副議長は、くしくも議会改革推進会議の座長、副座長が就任することとなり、これからの一年間をかけて議会改革が積極的に進められることになるとの期待が寄せられている。又、議長、副議長の両氏とも四期目の議員で世代交代を印象付けることに成った。

役員改選 議長 上田 悟氏 副議長 高柳 忠夫氏



高柳副議長



上田議長



医療を中心としたまちづくりセミナー

四月二日、荒井知事が、県立病院を改築するに当たり、県立病院とまちづくり構想とが一体となつて地域の発展にどのように結び付けられようとしているのか。そして、専門家の目から見て、今後の医療の方向性や地域住民の医療とのかかわりについての話し合いがもたれた。

県庁の副知事をはじめ各部長、関係課長。関係市町村の行政関係者が大勢参加して、特に県立奈良病院の将来像がどのようになるのか熱心に聞いた。

過疎・南部地域振興

対策特別委員会

昨年の台風被害を被った吉野郡各役場に赴き、その後の復旧や復興が順調に進められているかどうかについて、調査を行った。各地とも幹線の国道は仮設ではあるが従来通りの通行ができるようになった。支線の県道、村道については、まだ通行止めの箇所もあり一層の対策を求められた。



農林業の被害については、復旧、復興の支援や取り組みが土木部と比較して遅れていることこの報告が各地ともなされた。根底には、個人の被災への救済、後継者不足、個人の再投資への意欲等、農業の抱える課題が内在しているようすが見えてきました。(五月二十一日)

西名阪に 新インター



七月四日西名阪道路に新しくインターができた。大和郡山の昭和工業団地に隣接する形

となったインターは「大和まほろばスマートインター」と名付けられ、一般の利用が始まった。

政策勉強「道 駅」

宇陀市地域には二つの道の駅がある。すでに両方とも指定管理者が運営を行っており、施設としての採算を含め、管理されている。道の駅の制度は国土交通省で決められており、今後、道の駅の老朽化対策、新しい場所での設置計画申請について(国道二四号線奈良市内でなぜ道の駅は設置されていないのか)等、担当者に制度の内容を調査した。道の駅は公共性の高い場所としての使命、設置基準のルール等、国の考え方や設置者の取り組みなど理解を深めることができた。(四月十一日)



奈良県東部をよくするプロジェクト

奈良県の南部振興計画が東部地域にあまり触れていないとの指摘がなされてきた。奈良県に南部振興監のポストが設置され、改めて、その振興計画の中で、「東部をよくするプロジェクト会議」が県庁に設置され、各市町村との施策立案、調整推進に「東部振興懇話会」を設置し、再三会議を開催している



政策勉強「犬猫」



五月九日厚生労働省を訪ねた。犬・猫の管理の手法としてマイクロチップの装着を以前から主張しているが、厚生労働省

ッ